

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100286		
法人名	特定非営利活動法人 NPO 社会福祉振興会		
事業所名	グループホームななかまど歌志内館 1号館		
所在地	北海道歌志内市字中村34-1		
自己評価作成日	平成28年10月7日	評価結果市町村受理日	平成28年11月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigrosyoCd=0177100286-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に理念と運営方針を掲げ、マニュアルの徹底、職員一人一人が同じ思想仕事の目標を設定できるように職員の教育について研修を行っています。また個々のスキルアップ・資格取得のために研修会や講習会の参加への支援を行っています。そこで得た知識を最大限生かし適切な介護技術をもとに現場にて活用をしています。
ホーム以外の生活として、その人らしい生活が送れるように、馴染みのある商店の利用や、町内の河川清掃や新年会の参加。協力医療機関で開催されるサロンへ行くなど地域との交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームななかまど歌志内館」は、近くに道の駅やチロルの湯がある山々に囲まれた自然豊かな住宅地に立地している。建物内は量敷きの開放感のある造りで、利用者が好きな所でゆっくり過ごせるようにソファなどを各所に配置している。管理者とユニット長は、各職員が個別目標に沿ってスキルアップができるように、外部研修や法人研修を活用しながら職員の育成に積極的に取り組んでいる。全職員が統一したケアができるように、認知症の症状や対応など具体的な支援に沿ったマニュアルも整備されている。地域の行事に積極的に参加したり看護学校の実習生を受け入れるなど、外部の方々と自然に交流する機会を作っている。今年度は、近くを流れるベンケ歌志内川の氾濫経験を活かして市役所と一緒に水害時の対応について話し合ったり、事業所独自のマニュアルを作成するなど、市町村との連携も深められている。利用者や家族の意向を反映させながら介護計画を作成し、介護記録にメインとなる短期目標を毎日掲げて実践結果を記録に残して継続した支援ができるように取り組んでいる。管理者と職員は、利用者と共に寄り添いながら思いを汲み取り、ゆったりと落ち着いた生活ができるように理念に沿った温もりのある家庭的な生活を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の意味を理解できるよう研修を開催し、全スタッフが共通して理解できるよう取り組み、サービスの質の向上へとつなげています。	地域住民の一人として安心して暮らせるように支援するという法人共通の理念を基に、ユニット毎に月間目標を掲げている。事業所の要所に掲示して毎朝唱和することで、職員は常に理念を意識しながら個々に応じた支援を行い実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市・町内の行事(新年会・ふれあい喫茶・敬老会・河川清掃・盆踊りなど)に参加し、地域の一員となれるよう交流を大切にしています。	事業所行事に参加を呼びかけたり、町内会行事に積極的に参加している。美容室からお米を戴いたり、婦人部から布の寄附などを受けている。近隣の方が花壇の草むしりをしてくれることもある。散歩する幼稚園児と手を振りながら挨拶をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護実習生の受け入れや施設の見学者対応など行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度、運営推進会議を開催しています。参加される委員の皆様からの意見や要望を取り入れ事業所での取り組みの参考にさせて頂いています。	事業所報告を中心に、土砂災害や外部評価などを取り上げている。町内会を通して土砂災害時の対応を市役所に確認し、マニュアルの作成などにつなげている。会議案内と議事録を全家族に送付しているが、家族の参加が少なくなっている。	メインテーマを記載した会議案内を全家族に送付して事前に意見を聴き取るなど、参加できない家族の意見も会議に活かせるような取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などの機会に情報交換を行い、ご利用者さまの受け入れや事業所の取り組みなどに理解をしていただけるようにしています。	運営推進会議の機会に意見交換したり、介護保険の申請などで市役所を訪問している。電話で研修の開催内容や入居者情報などを貰っている。市の防災マニュアルの見直し時に、事業所の意見も反映されるなど協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関わる研修会を開催し、職員が共通した理解が得られるよう取り組んでいます。施錠は夜間のみおこなっています。	年1回、資料を基に言葉や身体拘束について社内研修を行っている。申し送り時に、事例に沿って適切な対応を確認することもある。社内研修資料に記載している「禁止の対象となる具体的な行為」を、身体拘束廃止マニュアルにも追加を予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関わる研修会を開催しています。日々、ご利用者さまの身体確認を行い、傷や痣などの早期発見に努め原因の把握に努めることで虐待の可能性を見逃さないようにしています。		

グループホームななかまど歌志内館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の必要性や制度について理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時に統括管理者と計画作成担当者が立ち合いご本人様・ご家族様に納得していただけるよう説明を実施しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加の呼びかけを行っています。また、面会時におけるコミュニケーションや面会簿に意見とう記入できる体制を整えています。苦情などがあつた場合は意見箱への投函が出来るよう設置しています。	年1回記述式の家族アンケートを実施しており、率直な意見も寄せられている。来訪時に面会用紙に家族の意見を記入して貰い、個別に細やかに対応している。本人の様子や健康状態を記載し、写真を入れた手紙を毎月家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議・NPO総会・面談時に職員が意見や提案が出来る機会を設け、ご利用者さまの支援や施設運営に繋ぎたいよう取り組んでいます。	管理者は、各職員と年2回個別面談を行い、外部研修なども本人の意向が反映できるように配慮している。日頃から職員の提案に沿って意見交換しながら、運営やケアに取り組んでいる。職員は、利用者や係などを担当して運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務体系は面談やその都度申し入れで対応調整をおこなっています。労働時間や資格取得などに個々が働ける意欲が持てるよう環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や知識力・技術力に合わせた研修を予定立て実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や交流会を通してサービス向上や意見交換をおこなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前から計画作成を中心に本人や家族から情報や要望を聞き、スタッフ間で共有できるようにしスタッフはもちろん他の入居者とも関わりやすいように少しでも早く安心して暮らせるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に施設への訪問や面談などを密に行い、家族の不安や困っていることを聞き取り耳を傾けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始の段階で、本人と家族の要望を反映してケアプランの作成し、説明・同意をいただいている。またアセスメント・モニタリングを行っていく中で、必要に応じてケアプランの変更を相談しながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりを個人として共に暮らすパートナーと考え馴染みの関係を作れるように努めている。また役割ごとなどをもっといただき、より一緒に暮らしている感じていただけるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も家族との関係を継続できるように、面会時や手紙での近況報告を行っている。また相談や疑問など親身になって応えられる様にし、家族が困っていることには職員も間に入り対応できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や商店の利用の継続のほか、自宅へ帰る機会を作ったり、昔馴染みの近所の方など気軽に面会に来ていただけるようにしている。	家族と一緒にカラオケや宗教の集まりなどに出かけたり、仕事関係の友人が来訪する利用者もいる。電話で会話が難しい場合は、職員が仲立ちをして内容を伝えている。職員や家族と一緒に、近くの温泉やコンビニなどへ買い物に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の中でも居間など共有スペースなど孤立しないような空間づくりを行ったり、始めはスタッフが間に入りながらも関わりや気にし合える環境を作るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後も何かあれば連絡や訪問していただき、相談や様々なフォローを行うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月の会議前に本人やご家族に要望や施設でどのように暮らしていきたいか、確認している。	利用者に寄り添いながら会話や仕草、表情などから思いや意向を把握している。「私の暮らし方シート」に随時変化を追記しながら、更に本人の状況の把握に努めたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族・関係者・個人ファイルなどからの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事の手伝いや洗濯物干しなど出来る人には手伝ってもらっている。そのほかにも食器拭きやテーブル拭き等も手伝ってもらうこともある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の思いを聞き会議やミーティングで話しケアプランの作成をしている。	家族や本人の意向を聴き取りながら毎月サービス担当者会議を行い、計画作成担当者を中心に6か月毎に介護計画の見直しを行っている。日々の介護記録に短期目標を記載して、実施状況を記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子や、ケアプランの実施状況等を日々記録し、ミーティングや会議などで情報共有を行い、見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が買い物や、外食を希望される時は都合の良い日に一緒に行っています。その他のニーズにも迅速に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所・町内会・温泉施設・道の駅の活用等、地域資源と協働を行っている。夏の盆踊りへの参加、地域での敬老会の参加。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望を優先し、医療との連携が出来るよう支援を行っている。本人の馴染みのある病院を受診している。	家族と受診する時は、必要に応じてバイタル表と書面で状況を伝えている。受診結果を書面で受け取ることもある。受診状況は、パソコンの個別予定表や介護記録で詳細に確認できるようにしている。	

グループホームななかまど歌志内館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週来てもらっている訪問看護師に、入居者さんの体調の変化を伝え、何か特変があった場合は支持を受けて対応している。近くの勤医協の看護師にも往診で診てもらい、情報の共有、連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報交換を行い、治療経過の把握や早期退院に向け話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・主治医などの医療関係者と段階的に話し合う機会を設け、チームで支援を行っている。	重度化と終末期における看取り介護の指針を作成して、利用開始時に事業所として可能な対応について説明して「急変時対応希望書」に署名捺印を得ている。体調変化に応じて急変時の対応について家族の意向を再確認し、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を受けたり、社内研修などを通して手当の仕方など実践力をみにつけるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員の立会いや、自主訓練を行っている。町内会に対しては災害時などにおける覚書があり協力体制を築いています。	年2回消防署の協力の下、夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。今年度は町内会長の参加を得て、一時避難場所の町内会館まで避難している。ベンケ歌志内川の増水により、水害時の対応マニュアルを新たに作成している。	地震時のマニュアルを基に、事業所内の危険箇所やケア別の対応について職員間で再確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重できるよう、丁寧な言葉遣いやケアを心がけ、自尊心を傷つけないようにしている。	言葉遣い等を記した10ヶ条を朝礼で唱和し、意識してケアを行っている。申し送り時には名前を部屋番号で伝え、記録類はパソコンで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話などで関わりを持ち、思いや要望を聞きだすことで自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の思いや要望・ペースを尊重し、その思いに沿った1日を過ごすことができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容室や訪問美容、外出や受診の前には衣類を入居者様と一緒に選び、楽しく生活できるよう支援している。		

グループホームななかまど歌志内館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者様の残存機能を生かせるよう、また、嗜好調査を行い好みの把握や調理支援等を一緒に行っている。		食事の支援では五感を刺激し、食欲が増すように工夫している。魚をさばいたり、野菜の下拵えで利用者の出来る面を活かしながら食事を作っている。ケーキ等のおやつ作りも一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の提供は入居者様の嗜好や口腔状態・嚥下状態に合わせて随時提供している。		/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様一人ひとりにあった口腔ケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様ごと、排泄シートを活用し排泄パターンを把握することで、トイレで排泄できるよう支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分の提供方法の工夫・乳製品の提供や適度な運動支援を行い、便秘を予防している。また、医療と相談し、入居者様にあった服薬の調整を行っている。		/	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様のご希望やタイミング等、必要に応じてそれぞれにあった支援を心がけている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や前日の睡眠状態・日中の活動状況に応じて布団乾燥機や電気毛布等を活用。また、ホットミルクの提供などを行い、安眠できるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬リストの確認や、受診・往診記録を確認し服薬の追加や増減を随時把握している。		/	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様が入居前に好まれていたことを把握し、それを楽しみ事や気分転換として支援している。			

グループホームななかまど歌志内館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各入居者様の楽しみにされていることやご希望を把握し、心身状態に配慮したその方にあった外出支援を心がけている。	車椅子使用の方も周囲の散歩や花壇を見たり、屋外でバーベキューやお茶を飲んで外気に触れている。近くにある道の駅に数人で出かけてソフトクリームを食べたり、買い物を楽しんでいる。季節の外出行事の他、個別の希望に沿って外食したり、赤平や砂川方面のスーパーに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各入居者様のIADLの状態に合わせ、所持や使用が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望や心身状態に配慮し、施設電話等を利用できるようにしている。また、難聴の方には、代わりに電話で御用件を伝えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間内に入居者様が不快に感じるものがないよう、配慮している。	建物を改造した共用空間は食卓テーブルとソファ席を別に配置し、寛げるスペースも設けている。床は畳にカーペットを敷き詰め、転倒にも配慮している。金魚やナマズの水槽を置き、室内犬と触れ合う生活は、温かで家庭的な雰囲気である。壁に作品や季節の飾り付けをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様一人ひとりに合わせた環境作りを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族のご協力をいただき、ご自宅から愛用されているものを持ってきてもらい、使えるようにしている。また、必要なものがある場合は随時ご家族に連絡し、購入できるように工夫している。	各居室に暖房器具を用意し、吊り棚にはカーテンを付けて見えないように配慮している。馴染みの家具類を持ち込み、普段使用している小物が置かれている。壁には作品や家族の写真等が飾っており、居心地よい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりが自立した日常生活ができるよう、無理なく安全に過ごすことができる環境づくりをしています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100286		
法人名	特定非営利活動法人 NPO 社会福祉振興会		
事業所名	グループホームななかまど歌志内館 2号館		
所在地	北海道歌志内市字中村34-1		
自己評価作成日	平成28年10月7日	評価結果市町村受理日	平成28年11月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigrosyoCd=0177100286-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

管理職や役職者に対し、理念や思想の共有や、マニュアルの徹底、他の職員に対する教育についての研修を改めて行うことで、入居者様やご家族に対し、安心や安全なサービスの保障が行えるよう力を入れている。
研修では、どの職員が対応しても、同じサービスが受けられること。また個々の支援について、尊厳や願いを大切にできるように支援することは基本である。それぞれの内面を理解し、どういった支援を受けたいか、気づきを持てるような職員、症例別ケアが実践できる職員の育成を行っている。
日頃の支援を通して、入居者様・ご家族の思いに気づき、以前の生活の差を少しでも減らし、生活の質が高められるようサービスの向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の復唱と合わせ、研修を実施し、理念について考える機会を設け、職員全体で同じ思いを共有し、実践につなげられるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣で行われている、喫茶行事や、町内会のお祭り、行事に参加し、地域の住民の皆様と交流できるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事への参加や、定期的開催している、運営推進会議を通じ、グループホームでの生活状況を報告し、地域の推進役となれるよう活動している。また、認知症サポーター養成講座の講師となれるよう、キャラバンメイトも在籍し、活動を検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、社会福祉協議会、老人会、近隣の施設職員へ参加を依頼し、2か月に1度活動報告を行っている。またその際には、地域の皆様からご意見を頂き、活動に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、地域ケア会議への参加などを通し、担当者との意見交換など行っている。また災害時の避難方法などについても、経験を通して担当者との見直しを行い、協力体制を整えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関については、日中は施錠せず、対応している。また、研修や事業所全体として、身体拘束を行わない施設ということをご家族や地域にも周知することで職員の意識を高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、研修を実施。日頃の支援の中にも、虐待につながってしまうような部分が潜んでいることを職員全体で認識し、そのような行為がないように努めている。		

グループホームななかまど歌志内館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格取得や、研修を通じ、権利擁護について学習する機会を設けている。またそれぞれの入居者様の生活状況などを把握し、必要な支援について、都度検討を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、契約書や重要事項説明書を通じて、説明を行い、十分にご理解いただけるよう丁寧に、時間をかけて対応を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡の際に、ご要望をお伺いしている。入居後にもアンケート調査を通じて、ご意見いただきお気持ちの把握し、反映できるよう対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やNPO総会、定期的な面談や、日頃からの声掛けにより、職員の意見や提案を組み入れ、運営に反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や、スキル、生活状況や気持ちの把握など行い、都度提案を行い、環境整備や勤務条件の整備、モチベーションアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況に合わせ、法人内外の研修の受講の提案及び資格習得について支援している。また、資格習得については特に、力を入れ、試験対策講座を設けるなど積極的に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や、全国のネットワークを通じ、様々な交流会に参加することにより、支援や運営について、自分たち以外の視点を知る機会を設け、サービスの向上につながるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は誰でも多少の混乱や不安があるので、常に寄り添い、不安の排除や環境整備などを職員一同共有して実践をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する事が初めてのご家族様も多いので、ゆっくり丁寧に説明をして都度質問や疑問がないかを確認しながら徐々に信頼関係を築いていっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何にご家族様は困っているのか？本人はどうしたいのか？なども含め、グループホーム以外のサービスもご説明をして、一緒に判断を決めていき、本当に必要なサービスを一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	好みや趣向、どんな過ごし方をする方なのかなどを会話や動作などからしっかりとくみ取り、信頼関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報の共有やご家族様の悩みなど、日常会話を通じてコミュニケーションをとり、本人様を交えて関係性もよりよくなるように配慮をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由な面会や、外出支援を行うようにし、これまで大事にしていた人、場所を忘れないようにする配慮をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを用いて入居者様同士のコミュニケーションを深めていただいたり、トラブルにならないように職員が間に入り加入することでかかわりを増やすことができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約をたとえ終了としても、それで終了ではなく、元気に過ごせているか。経過はどうかなど、場合によっては訪問したり、電話をしたりして状況を確認することもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から要望などを聞き、困難な時はご家族に連絡・相談し、意向を聞けるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や入所判定の際にこれまでの生活歴などをご本人、ご家族から聞き、センター方式などを活用、経過などを把握できるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身体状況をアセスメントし出来る事をさせていただいています。出来ない事があれば介助・支援出来るようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新時期や、身体状態の変化に応じて、ご本人様・ご家族様・必要な関係者と一緒に話し合いの時間を設け、それぞれの意見が反映した介護計画の作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や気付きや異変など、個別記録を記入。職員間で情報共有しながら、介護計画や日々の生活の見直しの際に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居様やご家族のニーズに合わせてスムーズに対応出来るよう、会議や毎日の朝礼など職員間、役職者でも柔軟に支援が行えるよう話し合っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで馴染んできた地域資源や道の駅・理美容室・診療所・役所関係など今まで通りに利用できるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人やご家族の希望に添えるように行い、病院との連携が取れるようにこちらから手紙を書いたり、ご家族にどのような状態で受診をするかをお電話し安心して受診できる体制を整えている。		

グループホームななかまど歌志内館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の健康状態や状況変化に対し常に目配りなど行い対応し、判断が出来ない場合には上司・看護師に相談・報告し指示を仰ぎ、状態によっては受診等も行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居様が入院された際、安心して治療に専念できるように、添書や服薬リスト等の情報提供、入院中の情報交換など、退院に対しても病院関係者と円滑に連携が取れるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にターミナルについての書類を作成し、説明・同意をいただくようしている。またご入居者の状態変化に応じて今後の支援の話し合いをご家族様と行い、医師と連携を取りながらチーム支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全体で救命講習や初期対応や応急処置方法について学んでいる。また、申し送りの際にどのような対応をしていくは確認をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を開催し消防職員立ち合いの下、設備点検などもしていただき指導を受けている。また、町内会から覚書を作成し、非常時等は協力していただけるように尽くしています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係の中でも礼儀や場面、状態に応じた声かけに努める。入居様が一個人である事を常に念頭に置き尊厳を傷つけないように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度希望等を聞き、自己決定がしやすい雰囲気、環境作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日どのようにすごしたいかご意見などを聞く、困難な場合は入居者様と話し合いをしながら努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や髭剃り、入居者様が美容室に行きたいと要望があれば行けるように支援をしている。		

グループホームななかまど歌志内館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日ごろから利用者さまの嗜好を把握するとともに、野菜の皮むきなど一人ひとりの状態に合った調理参加ができるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量や残食の記録を活用し、必要な栄養や水分が確保できるよう努めている。また咀嚼や嚥下の状態に合わせて、刻み食やペースト食での提供もおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを実施するとともに、就寝前には義歯洗浄ができるよう取り組んでいる。一人ひとりの状態に合わせて、自分でできる部分はなるべく自分でおこなえるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄状況の記録を活用し、一人ひとりの状態に合わせた排泄支援をおこなっている。また、可能な限りトイレでの自然な排泄ができるようトイレ誘導を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日ごろから乳製品を積極的に提供するとともに、運動プログラムを実施することで便秘予防の支援をおこなっている。また必要であれば下剤を調整することで便秘の解消につながるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴は、利用者さまの希望を尊重し曜日や時間帯を検討している。入浴の際は好みの入浴剤を使用したり、音楽をかけながらゆったり入浴できるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臥床や就寝については利用者様の希望や状態に応じて柔軟に対応している。寝具の清潔にも配慮し、なじみの寝具を長く使い続けられるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更については、職員間の申し送りを徹底し周知を図っている。利用者様の症状の変化や服薬内容についても情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者さまの嗜好や趣味を理解し、食後の一服(喫煙)や花札あそびなど、気分転換につながりメリハリのある生活となるよう支援している。		

グループホームななかまど歌志内館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日起床時にはその日の過ごし方や希望を確認するようにしており、買い物や散歩などの支援ができるようにしている。また、突発的に希望があった場合でも支援ができるように人員調整をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が病気のせいで難しい入居者様が多いが、中でも管理ができる入居者様にはお財布を持ってもらい、支払いや買い物などで直接行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に対してお話をしたい時にはすぐに対応ができるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけを催したり、季節に合った食事を提供するなどして、季節感を演出している。また、清潔保持や香りなどにも気を配り、不快な思いが無いように配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで仲良くお話ができるように、テレビ前にスペースを確保し、お茶会ができるようにしている。また、一人でもくつろげるように、静かな空間も確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具はすべて今まで使っていたものを持参していただき、これまでの暮らしと大差がないように配慮をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元への配慮や、てすりを多数配置し、歩行のしやすい環境を整えている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームななかまど歌志内館

作成日：平成 28年 11月 22日

市町村受理日：平成 28年 11月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議について、ご家族の参加が困難な状況であり、会議の内容などを伝えられていない。	ご家族様の意見や要望を取り入れる体勢を作り、会議内容の詳細をお知らせしていきサービスの質の向上を目指す。	運営推進会議の議事録をご家族様に送付し、情報を発信していく。また、日程を長期に渡って調整し参加日を設定しご家族様の参加を図る。ご都合が合わない事も予測されるためアンケート調査を行い、ご意見・ご要望が反映されるよう取り組む。	1年
2	35	平成28年8月10日に近隣の河川(パンケ歌志内川)が氾濫し一時避難を余儀なくされた。集中豪雨による短時間での増水で避難誘導に時間がかかってしまった。改めて災害時におけるマニュアルの見直し・作成を行う必要がある。	歌志内市役所との連携を図り河川増水による避難経路や災害時マニュアルは完成出来たが、地震・火災といった災害時の対策を行う。	地震や火災が起こった際に、どの箇所が危険なのか、また二次災害なども考慮し、あらゆるリスクを想定したマニュアルを作成し職員全体に周知・対応できるよう教育していく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。